

令和3年度
伊那市事務事業外部評価報告書

令和3年11月
伊那市行政改革審議会

《目次》

1	はじめに	1
2	評価の概要	1
	（1）対象事業の選定（選定基準）	
	（2）評価の視点	
3	評価の結果	3
4	事務事業別評価内容	
	・同郷の会	4
	・市民まつり	6
	・集会施設整備関係補助金	8
	・高齢者クラブ等補助金	11
	(参考資料)	
◆	行政改革審議会委員	14
◆	開催の経過	14

1 はじめに

行政評価は、社会経済情勢や市民要望などに的確に対応できる行政経営を行うための一手法であり、「Plan（計画）⇒Do（実践）⇒Check（評価）⇒Action（見直し）」というサイクルの中で、事業の実施結果を検証するCheckにあたる部分として位置づけられているものです。

伊那市では、市民の視点から評価を行うことにより、行政評価の客観性及び透明性を高め、限られた経営資源の有効活用を図るため、平成21年度以降、外部評価を実施しています。

外部評価は、市の事業について、評価者がそれぞれの視点で課題や改善点を客観的に判断し、事業主体の妥当性、事業の必要性、有効性、効率性、適切性、公平性などについて評価（市長に報告）することにより、最小の経費で最大の効果を上げる市政の実現を図るものです。

令和3年度は、イベント関係2事業、補助金関係2事業の計4事業を選定し、伊那市行政改革審議会による外部評価を実施しました。

2 評価の概要

(1) 対象事業の選定

ア イベントについて

イベントは市町村合併前から継続して実施しているものなど慣例的に行われるものがある中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止する事業が散見され、見直しの契機となっています。

今回は、市町村合併20周年(令和7年度)を契機に見直しが考えられるものとして次の2事業を抽出しました。

○同郷の会

事務事業名	主管課名
ふるさと信州伊那の会	企画部 地域創造課
高遠会	高遠町総合支所 総務課
長谷人会	長谷総合支所 総務課

○市民まつり

事務事業名	主管課名
伊那まつり	商工観光部 観光課
高遠城下まつり	商工観光部 高遠商工観光課
南アルプスふるさと祭り	商工観光部 山岳高原観光課

イ 補助金について

補助金については、補助金台帳では100を超える事業が登録されており、継続的に交付しているものや特定の団体に補助金を交付しているものなどが見受けられ、恒常的な財政の負担となっています。

今回は、類似して交付されているもの、特定の団体に継続的に交付しているものとして次の2事業を抽出しました。

○集会施設整備関係補助金

事務事業名	主管課名
集会施設整備事業補助金	教育委員会事務局 生涯学習課
高齢者にやさしい集会施設改修事業補助金	保健福祉部 社会福祉課

○高齢者クラブ等補助金

事務事業名	主管課名
敬老会事業補助金	保健福祉部 社会福祉課
高齢者クラブ連合会活動助成補助金	保健福祉部 社会福祉課
単位高齢者クラブ活動助成補助金	保健福祉部 社会福祉課

(2) 評価の視点

市の事業(施設)について、そもそも必要な事業(施設)かどうか、必要ならば行政が行うべきか、民間が行うべきか、行政が行うべき事業(施設)であっても、どの主体(国、県、広域連合、市)が行うべきかを段階的に判断し、「休止・廃止」、「縮小」、「事業主体の見直し」、「実施主体の見直し」、「事業内容の見直し」、「拡大・充実」、「現状維持」の7つの区分により評価を行いました。

【第1段階】 そもそも、この事業が必要か？

- ① 目的を概ね達成し、実施意義が低下していないか。
- ② 社会情勢の変化の中で、事業を継続しても効果が期待できないのではないか。
- ③ この事業がなくなっても、利用者への影響がない(少ない)のではないか。

【第2段階】 誰が行うべきか？

- ① 民間への移管により、効率的に目的を達成できるか。
- ② 民間事業の利用により、効率的に目的を達成できるか。
- ③ 広域連合、県、国等の行政機関で行うべき事業であるか。

【第3段階】 事業の規模は適正か？

- ① 事業が過大または他の事業の利用等により、縮小・統廃合すべきか。
- ② 市民サービス向上に向けた見直しが必要であるか。
- ③ 事業規模は適正であるか。
- ④ 事業規模を拡大し、充実させる必要があるか。

【第4段階】 事業の利用状況は適切か？

- ① 利用状況に対し経費が高額であり、縮小すべきであるか。
- ② 市民サービス向上に向けて取り組み内容の見直しが必要であるか。
- ③ 利用状況は適正であるか。
- ④ 取組内容を拡大・充実させる必要があるか。

【第5段階】 施設の運営方法(運営方法は適正か)

- ① 施設の運営は民間委託すべき施設であるか。
- ② 施設管理と同様に、市が直接管理すべき施設であるか。

3 評価の結果

(1) イベントについて

ア 同郷の会

事務事業名	評価結果
ふるさと信州伊那の会	事業内容の見直し
高遠会	ふるさと信州伊那の会へ「統合」
長谷人会	ふるさと信州伊那の会へ「統合」

イ 市民まつり

事務事業名	評価結果
伊那まつり	踊りと花火を分けて「事業主体の見直し」
高遠城下まつり	現状維持
南アルプスふるさと祭り	現状維持

(2) 補助金について

ア 集会施設整備関係補助金

事務事業名	評価結果
集会施設整備事業	補助内容、補助率を「拡大・充実」
高齢者にやさしい集会施設改修事業	集会施設整備事業へ「統合」

イ 高齢者クラブ等補助金

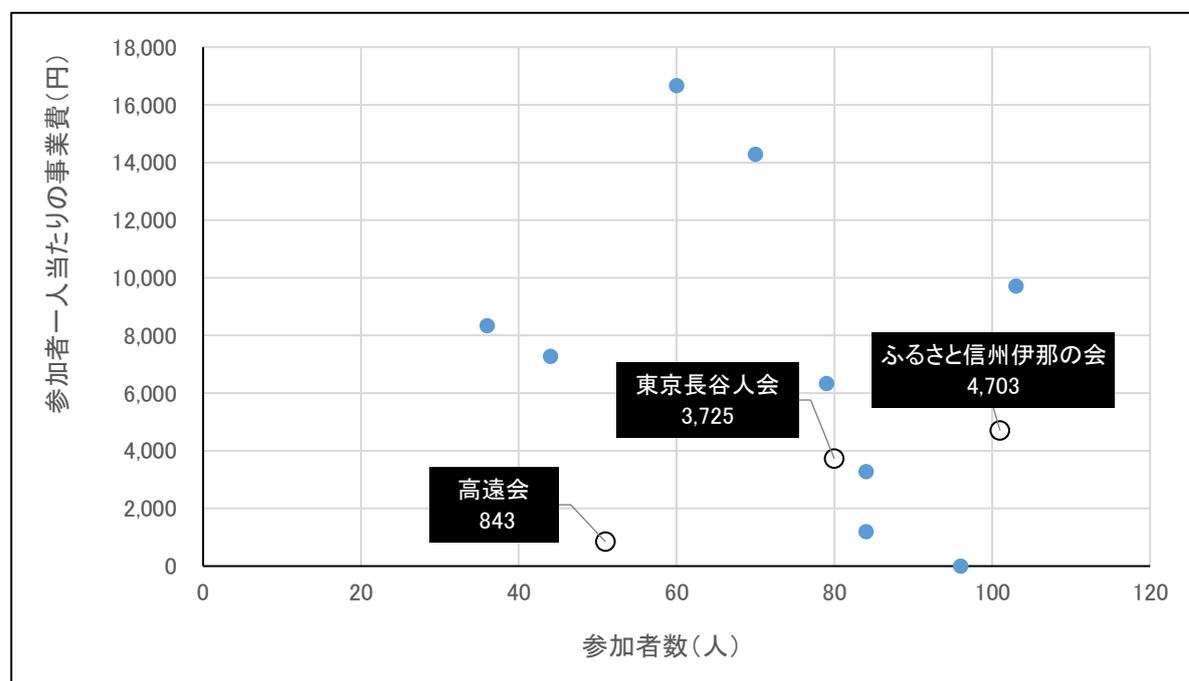
事務事業名	評価結果
敬老会事業	現状維持
高齢者クラブ連合会活動助成	事業内容の見直し
単位高齢者クラブ活動助成	事業内容の見直し

4 事務事業別評価内容

事務事業名	同郷の会		
事業名	ふるさと信州伊那の会	高遠会	長谷人会
部局名	企画部 地域創造課	高遠町総合支所 総務課	長谷総合支所 総務課
目的	関東圏在住の同郷者の交流会の開催ならびに伊那市の情報発信を実施。	関東圏在住の高遠町出身者とその家族及び高遠町に思いを寄せる方の親睦を深めるとともに高遠町の宣伝を実施。	関東圏在住の長谷出身者の会で、年1回総会を実施。
事業概要	年1回、11月に都内で交流会を開催	年1回、5月に都内で総会(親睦会)を開催	年1回、6月に総会を開催
事業費(人件費を除く)と参加者数 【平成30年・令和元年度の平均】			
事業費	475千円	43千円	298千円
参加者	101人	51人	80人
参加者一人当たりの事業費	4,703円/人	843円/人	3,725円/人
評価結果	事業内容の見直し	ふるさと信州伊那の会へ「統合」	ふるさと信州伊那の会へ「統合」
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・現状として会員数が減少しており、新たな会員の補充も難しい中で、今後も3つの会を存続させていくことは難しい。 ・最も大きく、全体を包括できる「ふるさと信州伊那の会」に統合するように考えられてはいかがか。 ・「ふるさと信州伊那の会」へ統合することで会が強くなってきたら、事業内容の見直しを行ってみてはいかがか。 		
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・統合により大きな組織になりますので、どの程度伊那市が関与されるか、独自に運営することが可能かどうか、市の予算の限りで検討されたい。 		

○県内各市の状況

ア 参加者数と参加者一人当たりの事業費



イ 現状と課題

- ・ 会員が減少、高齢化、固定化している。(すべての自治体)
- ・ 新規加入者(参加者)が確保できない。(すべての自治体)

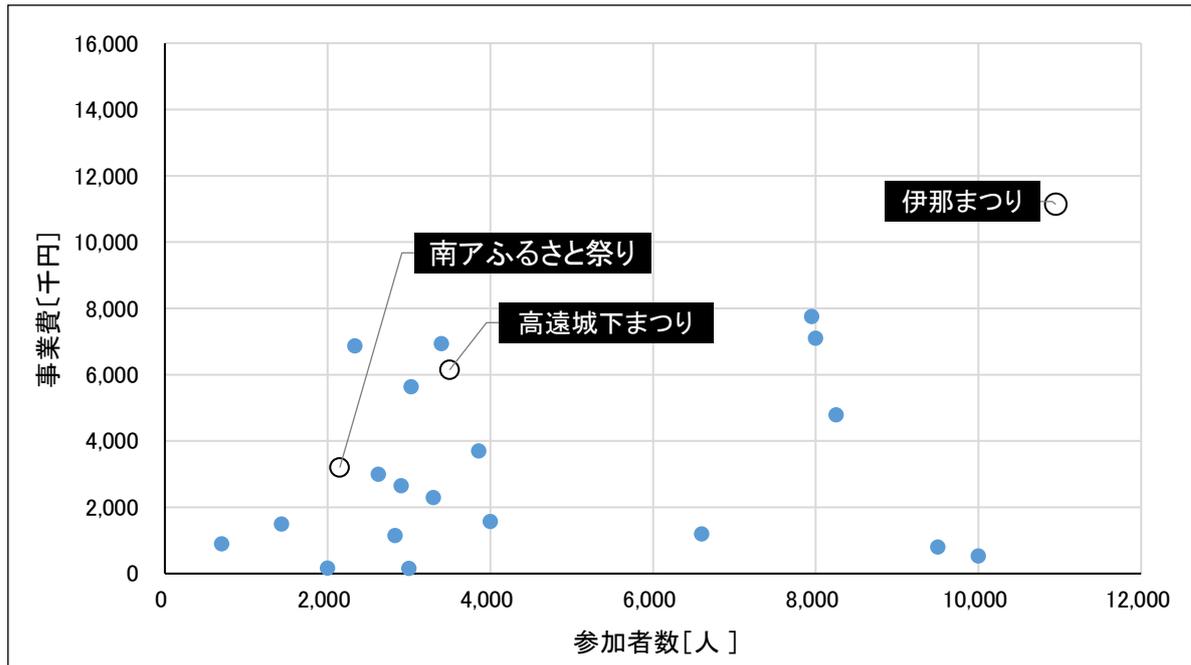
ウ 今後の方向性

- ・ 会の意向を尊重し、検討する。
- ・ 関係人口として位置づけ、会の維持・存続を図る。
- ・ 参加者の満足度が高いため、今後も継続する。
- ・ 関西、中京圏については見直しを行う。

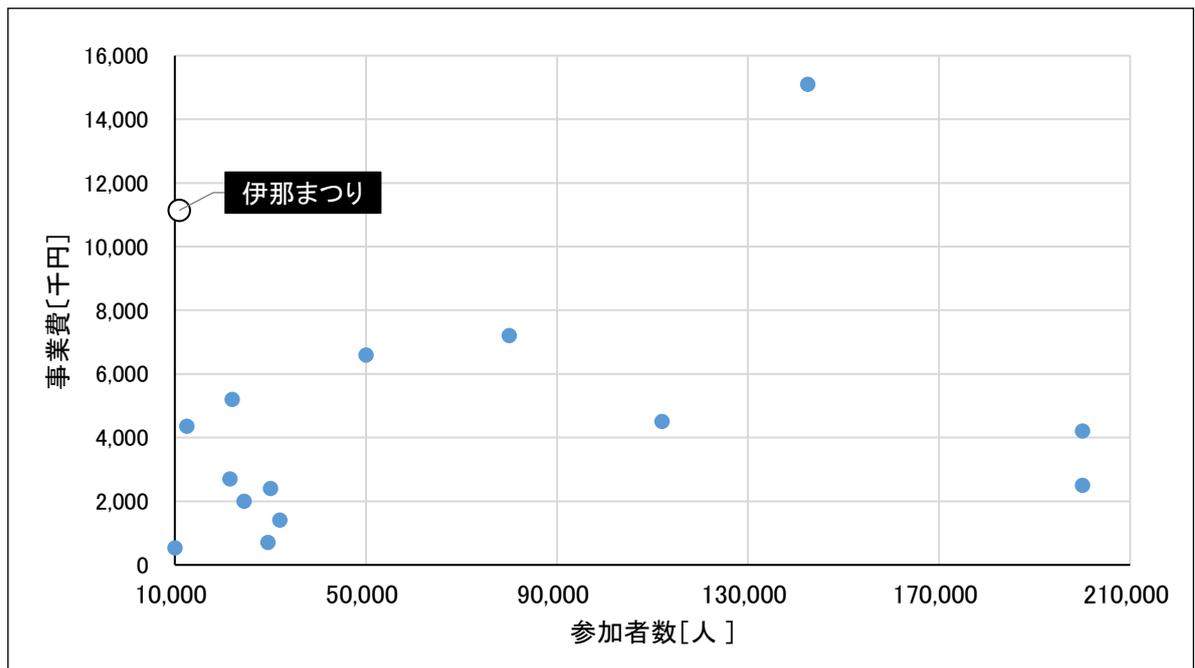
事務事業名	市民まつり		
事業名	伊那まつり	高遠城下まつり	南アルプスふるさと祭り
部局名	商工観光部 観光課	商工観光部 高遠商工観光課	商工観光部 山岳高原観光課
目的	市民主体で、市民総参加の魅力あるまつりを実施する。	住民総参加の祭りを実施することにより、地域の活性化を図る。	地域住民が一堂に会し楽しめるイベントを目指す。
事業概要	1日目は中心市街地で市民踊り、2日目は伊那市役所駐車場で開催。ステージ発表、遊 ing ビレッジ、花火大会を実施。	商店街本通りを歩行者天国としてイベントを実施。高遠ゆかりの地の芸能披露。町民総参加による手踊りを行い、花火で締めくくる。	ステージ発表、飲食コーナーを中心に子供からお年寄りまでが楽しめるイベントを実施。花火で締めくくる。
事業費と参加者数 【平成30年・令和元年度の平均】			
事業費	11,140千円	6,147千円	3,200千円
参加者	10,950人	3,500人	2,150人
参加者一人当たりの事業費	1,017円/人	1,756円/人	1,488円/人
評価結果	踊りと花火に分けて「事業主体の見直し」	現状維持	現状維持
主な意見	・「市民踊り」と「花火」を分離して、それぞれ適切な事業主体、実施主体を考えてみはいかか。	・非常に地域色の強いものですので、現状で頑張っていたきたい。	
その他の意見	・2つに分けた場合のご苦勞があると思いますが、ぜひご検討いただきたい。	・「同郷の会」というものがあり、なかなか運営が厳しい中で、こうしたイベントをしっかり行い、故郷に対する強い思いを植え付けていただきたい。	

○県内各市の状況

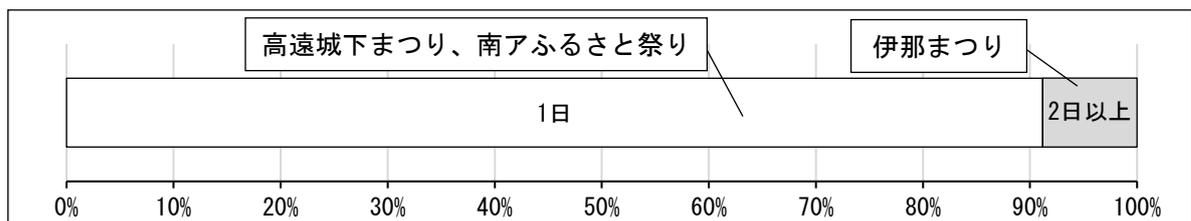
ア 参加者数（12,000人以下）と事業費



イ 参加者数（10,000人以上）と事業費



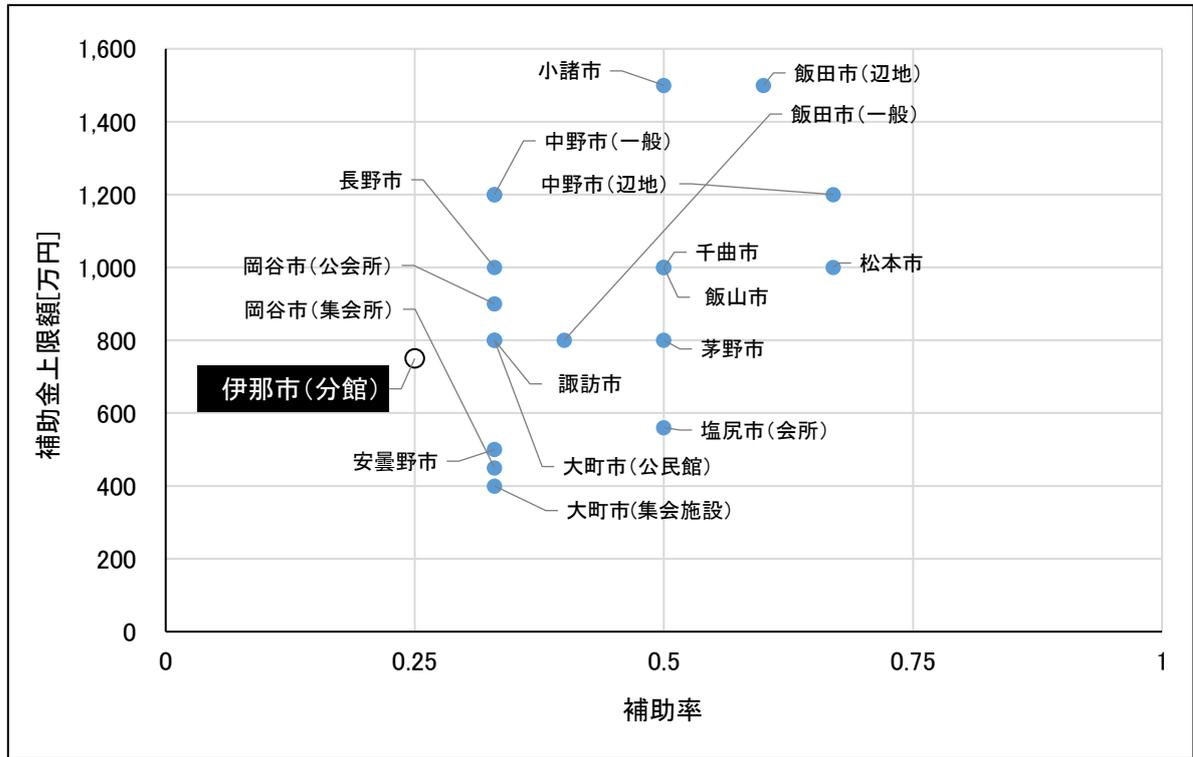
ウ 開催日数の比率



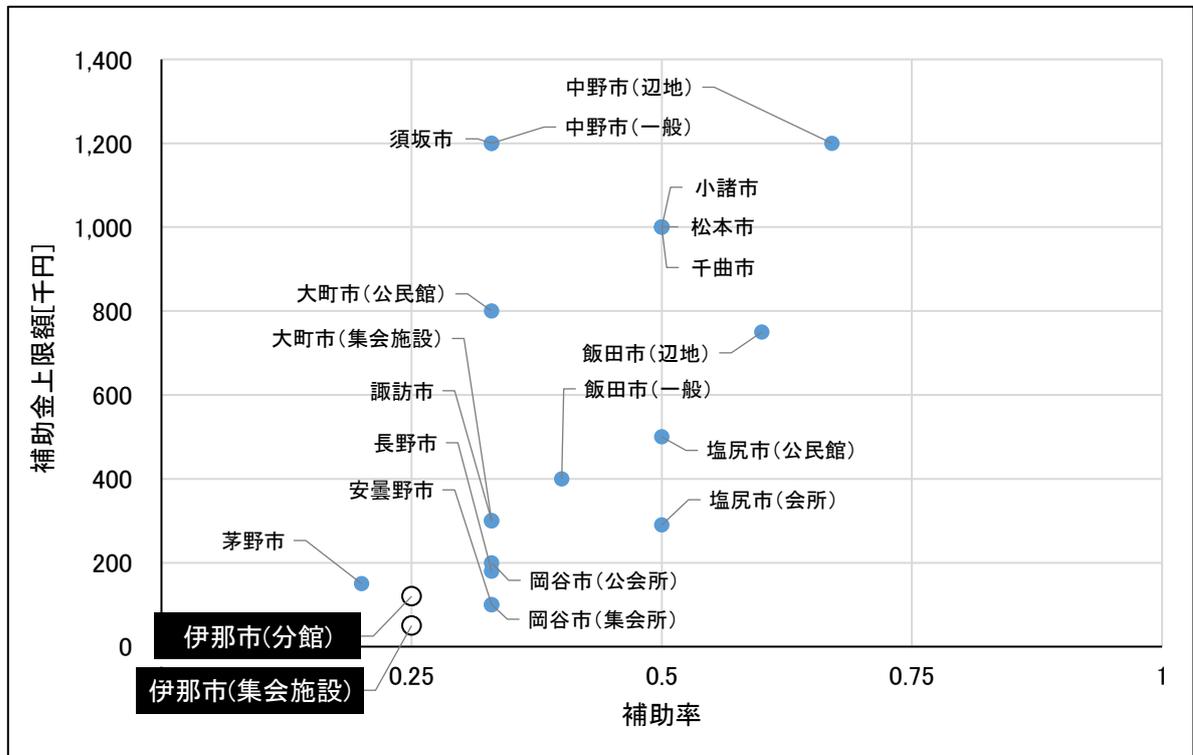
事務事業名	集会施設整備関係補助金	
事業名	集会施設整備事業補助金	高齢者にやさしい 集会施設改修事業補助金
部局名	教育委員会 生涯学習課	保健福祉部 社会福祉課
目的	地域自治団体が行う集会施設の整備に要する経費に対し補助を行う。	高齢者が利用しやすくするための集会施設の改修について補助を行う。
補助内容	【公民館分館等】 新築：25%以内(上限 750 万円) 増築：25%以内(上限 120 万円) 改修等：25%以内(上限 120 万円) 水洗化・耐震：30%以内(上限 150 万円) 【町内会・常会・組等の施設】 改修等：25%以内(上限 50 万円) 水洗化・耐震化：30%以内(上限 60 万円)	段差の解消や手すりの設置などの改修費用について、対象経費の 10 分の 9 以内(上限 30 万円)を補助する。
事業費と参加者数 【平成 30 年～令和2年度の平均】		
事業費	3, 3 7 9 千円	8 6 4 千円
補助件数	9. 3 件	3. 3 人
一件当たりの 事業費	3 6 3 千円/件	2 6 2 千円/件
評価結果	拡大・充実	集会施設整備事業補助金へ 「統合」
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助率 25%では、高齢者が多い地区ではかなりの負担であり補助率を上げるよう検討いただきたい。 ・ 古い施設は、今後、解体だけ行うことも想定されるため、解体のみの補助も検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集会施設整備事業補助金へ「統合」を検討いただきたい。
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民数も減少し高齢化も進む中で、今後の利用者数、活用状況について将来を見通し、必要な地区には集中的な投資を検討いただきたい。 	

○県内各市の補助率と上限額状況

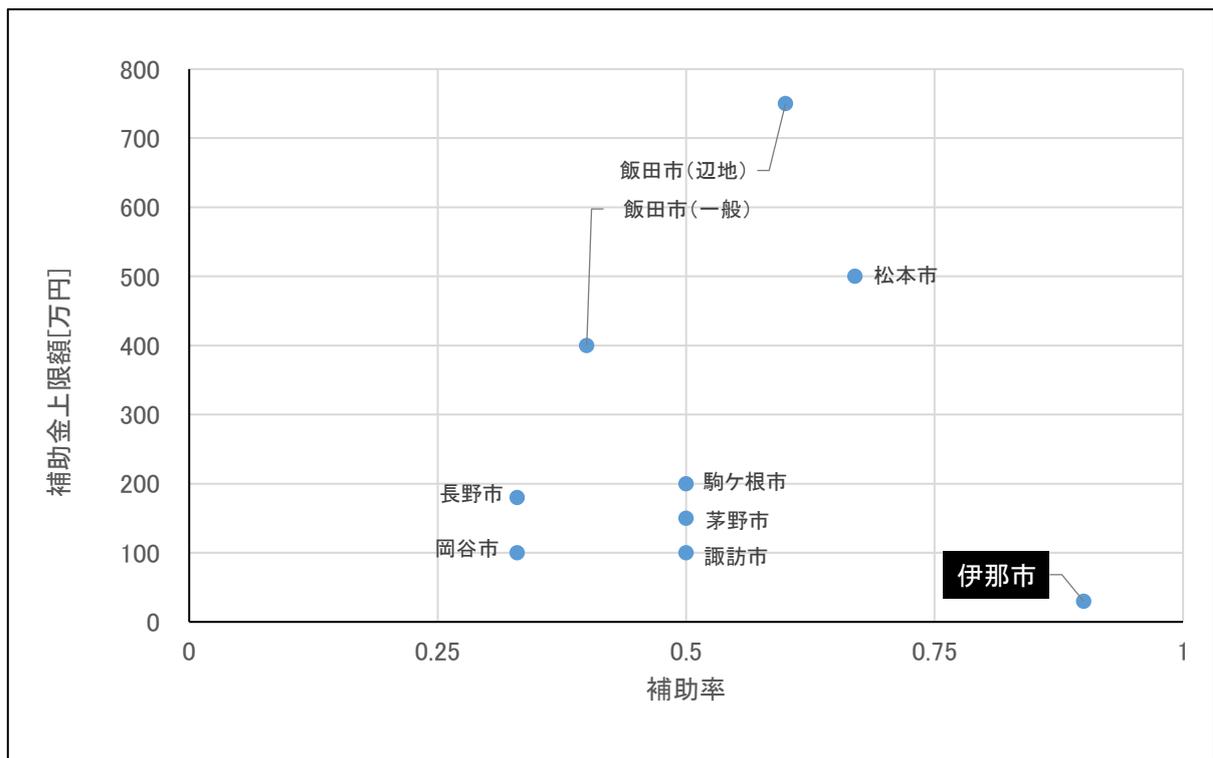
ア 新築



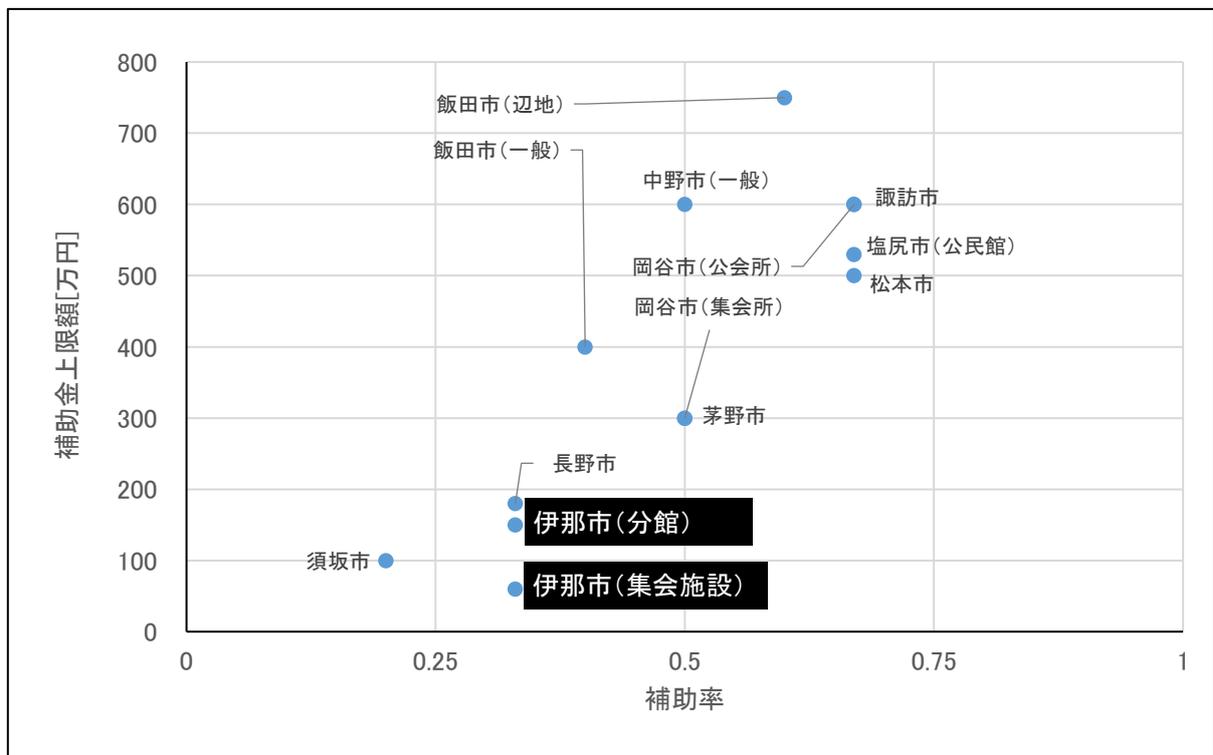
イ 改築・改修等



ウ バリアフリー化



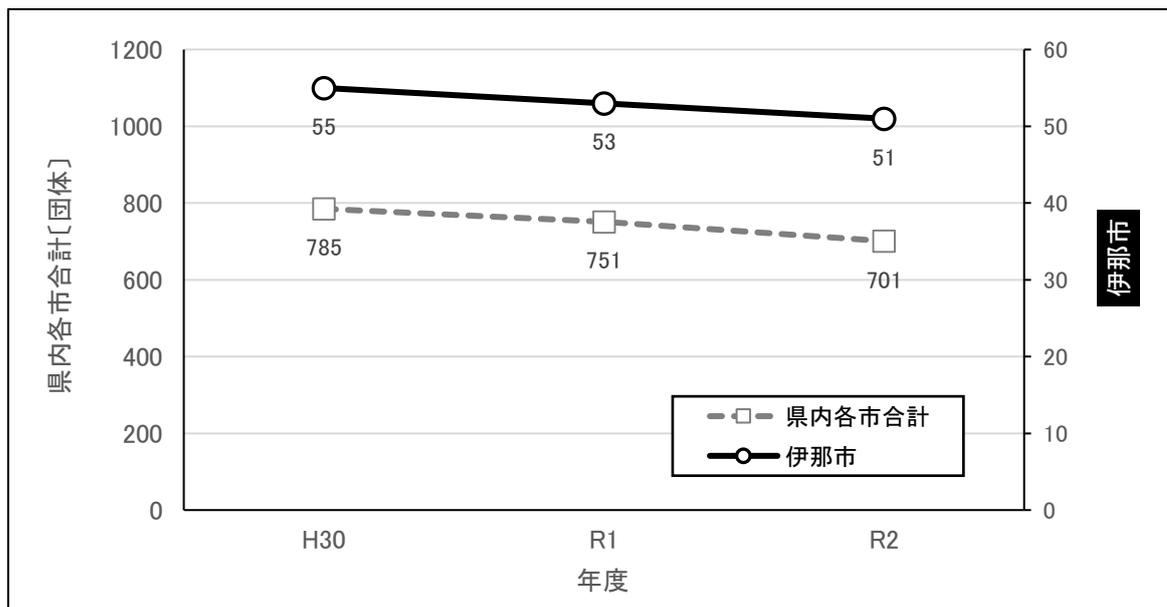
エ 耐震補強



事務事業名	高齢者クラブ等補助金		
事業名	敬老会事業補助金	高齢者クラブ連合会 活動助成補助金	単位高齢者クラブ 活動助成補助金
部局名	保健福祉部 社会福祉課	保健福祉部 社会福祉課	保健福祉部 社会福祉課
目的	長寿を祝うため、地区が行う敬老会事業に補助する	高齢者クラブの活動を通じた支えあいの高齢社会を目指す。	高齢者クラブの活動を通じた支えあいの高齢社会を目指す。
補助内容	区等が実施する敬老会事業の経費に対して補助する。上限は地区内の75歳以上の人口×300円 (過疎債充当)	市高齢者クラブ連合会に対して活動費の助成を行う。 (県補助有(2/3))	単位高齢者クラブに対して活動費の助成を行う。 (県補助あり(2/3)、過疎債充当)
事業費と参加者数 【平成30年～令和2年度の平均】			
事業費	3,103千円	1,160千円	3,510千円
75歳以上の人口	11,597人	11,597人	11,597人
75歳以上の1人当たりの事業費	267円/人	100円/人	303円/人
評価結果	現状維持	事業内容の見直し	
主な意見	・敬老会へ参加できない方への配慮もあることから、今後とも継続をお願いしたい。	・高齢者が増加する一方で、各地区の単位クラブの減少、連合会役員の負担を感じる様子が伺える。 ・時代が移り変わる中で、現状や時代の動きに合わせて、クラブのあり方を見直していただきたい。	
その他の意見		・連合会は、組織に事務局だけあればいいのか、各組織から役員を出す必要があるのか、連合体組織自体が本当に必要なのかを含めて議論いただきたい。	

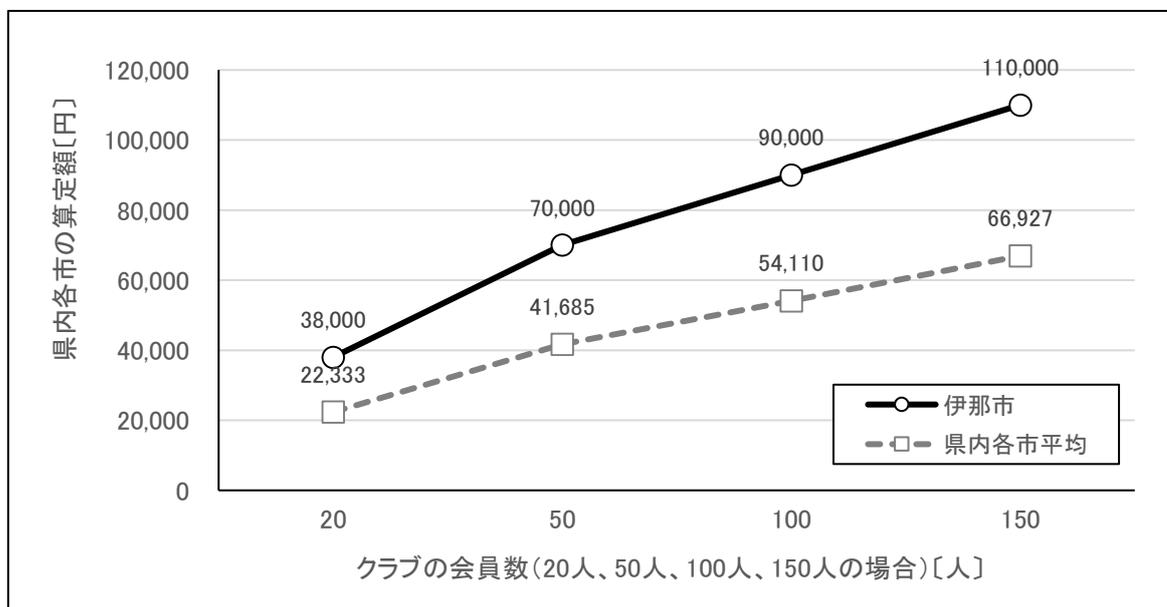
○県内各市の状況

ア 単位高齢者クラブ数の推移



- ・県内各市の単位高齢者クラブ数は減少傾向にある。
- ・伊那市も、高齢者数の増加に反し、減少傾向にある。

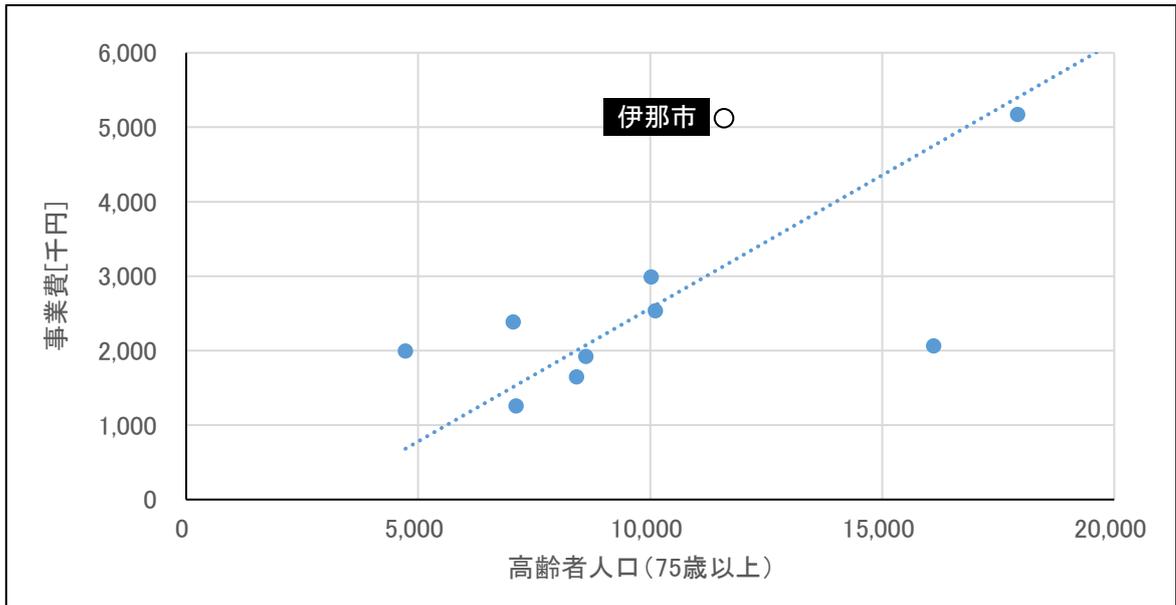
イ 単位高齢者クラブへの補助算定額（会員割+均等割）



- ・伊那市は県内各市平均と比較し、手厚い状況にある。

ウ 高齢者クラブへの補助金額

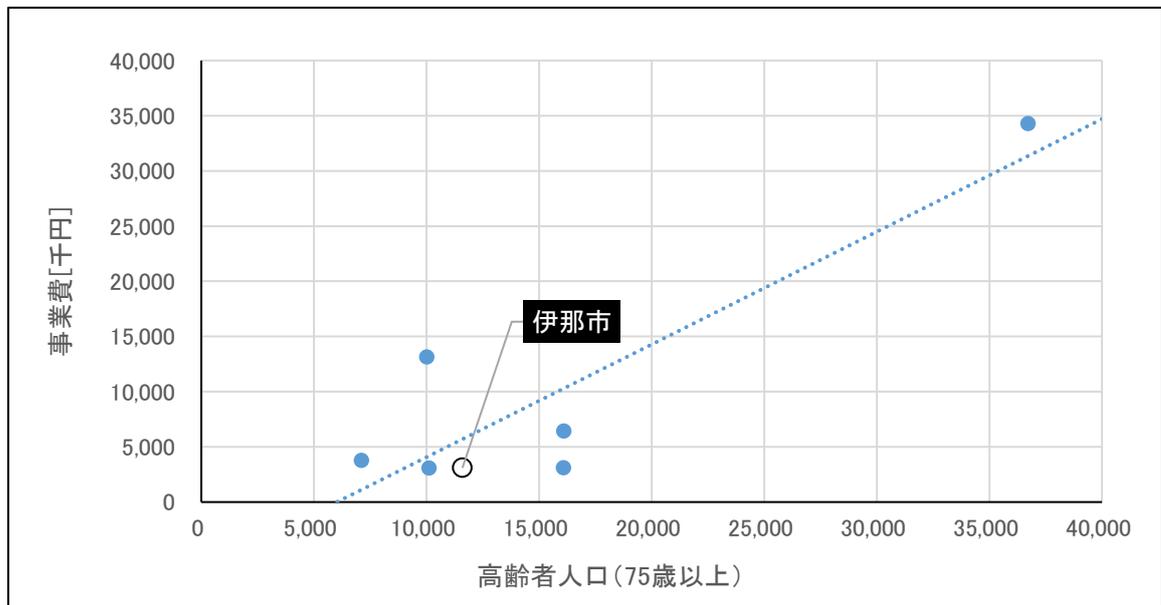
○高齢者の人口（75歳以上）と高齢者クラブへの補助金額（平成30年度～令和2年度平均）



・伊那市は他市と比較し、手厚い状況にある。

エ 敬老会への補助金額

○高齢者の人口（75歳以上）と敬老会への補助金額（平成30年度～令和2年度平均）



- ・敬老会へ補助している市は、県内では少数となっている。
- ・他市との比較し、伊那市は平均的な状況にある。

(参考資料)

◆行政改革審議会委員（9人）

◎：会長 ○：副会長

氏名	所属団体	氏名	所属団体
◎神 勝紀	信州大学農学部	村田 和憲	一般財団法人 長野経済研究所
○飯島 信子	伊那市女性団体連絡協議会	本比田 哲郎	伊那市金融団 (令和3年度)
吉澤 文男	伊那商工会議所	篠田 貞行	社会福祉法人 伊那市社会福祉協議会
唐木 孝	関東信越税理士会伊那支部	池上 忍	行政経験者
小口 知彦	伊那食品工業株式会社		

◆開催の経過

開催日	外部評価
10月6日(水)	同郷の会 ・ふるさと信州伊那の会 ・高遠会 ・長谷人会
	市民まつり ・伊那まつり ・高遠城下まつり ・南アルプスふるさと祭り
	集会施設整備関係補助金 ・集会施設整備事業 ・高齢者にやさしい集会施設改修事業
	高齢者クラブ等補助金 ・高齢者クラブ連合会活動助成 ・単位高齢者クラブ活動助成 ・敬老会事業